

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「絵を 見て かこう / つづけて みよう」 教材名「絵を 見て かこう / つづけて みよう」

2 単元の目標

第1学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

絵から想像した事柄を確かめ、友達に伝わる短い文章にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①第1学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①絵から想像した事柄を確かめ、友達に伝わる短い文章にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

絵から想像した事柄を確かめ、友達に伝わる短い文章にする。この教材では、絵から選んだ様子を表す文と友達の感想を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

絵は手元の教科書で参照し、場所・人物・動きに指を置いて確かめる。想像して足すことと絵から分かることを分ける。想定する難しさは、絵のすべてを列挙して中心が曖昧になる。評価では、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、絵から選んだ様子を表す文と友達の感想と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教科書の絵は手元で見て、描かれていることと想像したことを分ける。中心を決めて既習漢字で短い文章を書き、感想を読み合う。読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「絵のどの出来事を文章で知らせたいですか」 【めあて】絵から想像した事柄を確かめ、友達に伝わる短い文章にする。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ絵でも選んだ人が違うと文が違った。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「絵のどの出来事を文章で知らせたいですか」 教科書の絵は手元で見て、描かれていることと想像したことを分ける。中心を決めて既習漢字で短い文章を書き、感想を読み合う。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ絵でも選んだ人が違うと文が違った。 ・だれが何をしているかを書きたい。	絵は手元の教科書で参照し、場所・人物・動きに指を置いて確かめる。想像して足すことと絵から分かることを分ける。 想定する難しさ：絵のすべてを列挙して中心が曖昧になる。 評価では、想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、絵から選んだ様子を表す文と友達の感想と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 絵から選んだ様子を表す文と友達の感想を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・だれが何をしているかを書きたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「絵のどの出来事を文章で知らせたいですか」。中央は、絵から選んだ様子を表す文と友達の感想に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

